

徳川家康公顕彰四百年記念 全国学生書写書道公募展実行委員会

- 顧問 上川陽子(衆議院議員・法務大臣) / 天野 一(県会議員)
 中澤公彦(県会議員) / 田辺信宏(静岡市長) / 鈴木康友(浜松市長)
 鈴木和彦(静岡市議) / 繁田和三(静岡市議) / 鳥井徳孝(浜松市議)
 酒井公夫(静岡鉄道株式会社代表取締役社長)
 早川 巖(鈴与株式会社代表取締役副会長)
- 会長 塩谷立(衆議院議員・県書写書道振興会会長)
- 会長代行 杉浦太奎(県書写書道振興会会長代行)
- 副会長 安倍 徹(静岡県教育長) / 落合偉洲(久能山東照宮宮司)
 高木雅宏(静岡市教育長) / 児玉一記(浜松市教育長)
 長谷川敬剛(静岡県教育研究会会長) / 中澤阜揚(県書写書道振興会理事長)
- 実行委員長 平形精逸
- 副実行委員長 大滝溪仙 / 紅林定宏 / 松本健作 / 太田 仁 / 杉崎哲子
- 事務局長 杉浦弘承
- 副事務局長 林 剛史 / 河本澄子 / 山下雄二 / 青島秀夫 / 小杉翟峻
 見城正訓 / 高橋俊行 / 丸山翠心
- 会計 大石清苔
- 審査顧問 杭迫柏樹 / 星 弘道 / 高木聖雨 / 長野竹軒
- 審査委員長 加藤泰弘
- 審査副委員長 齊藤克美 / 宮澤正明
- 運営委員(審査委員) / 書写書道振興会役員 / 静教研役員 / 協賛企業代表者
 〈東部地区〉 稲葉彰花 / 遠藤芝鳳 / 大村華谷 / 河野浩美 / 小林尚葉 / 佐野明美
 佐野清香 / 佐野三麗 / 鈴木恵雲 / 鈴木玉翠 / 鈴木李風 / 仙田萌雲
 鳥宮暁秀 / 平田游希 / 増田文杏 / 柿埜紅陽
 〈中部地区〉 青島秀夫 / 赤堀祥鳳 / 遠藤江月 / 大内翠雅 / 風間花篁 / 片平溪雨
 見城正訓 / 小林菘峰 / 坂本欣徑 / 渋谷耕雲 / 長曾我部幽我
 都築有道 / 中村遙洸 / 本多錦川 / 丸山翠心 / 山梨清雅 / 吉田琴翠
 〈西部地区〉 飯田敬水 / 市川晃彩 / 大杉汀華 / 大城桂香 / 太田玉蕙 / 大村貴徳
 小杉翟峻 / 猿田晃翠 / 柴谷峰花 / 菅沼秀琰 / 鈴木彩園 / 田辺隆齋
 徳増天慎 / 中澤彰子 / 中道琴翠 / 中村桂葉 / 中村美好 / 森川玉豊
 和久田桂園

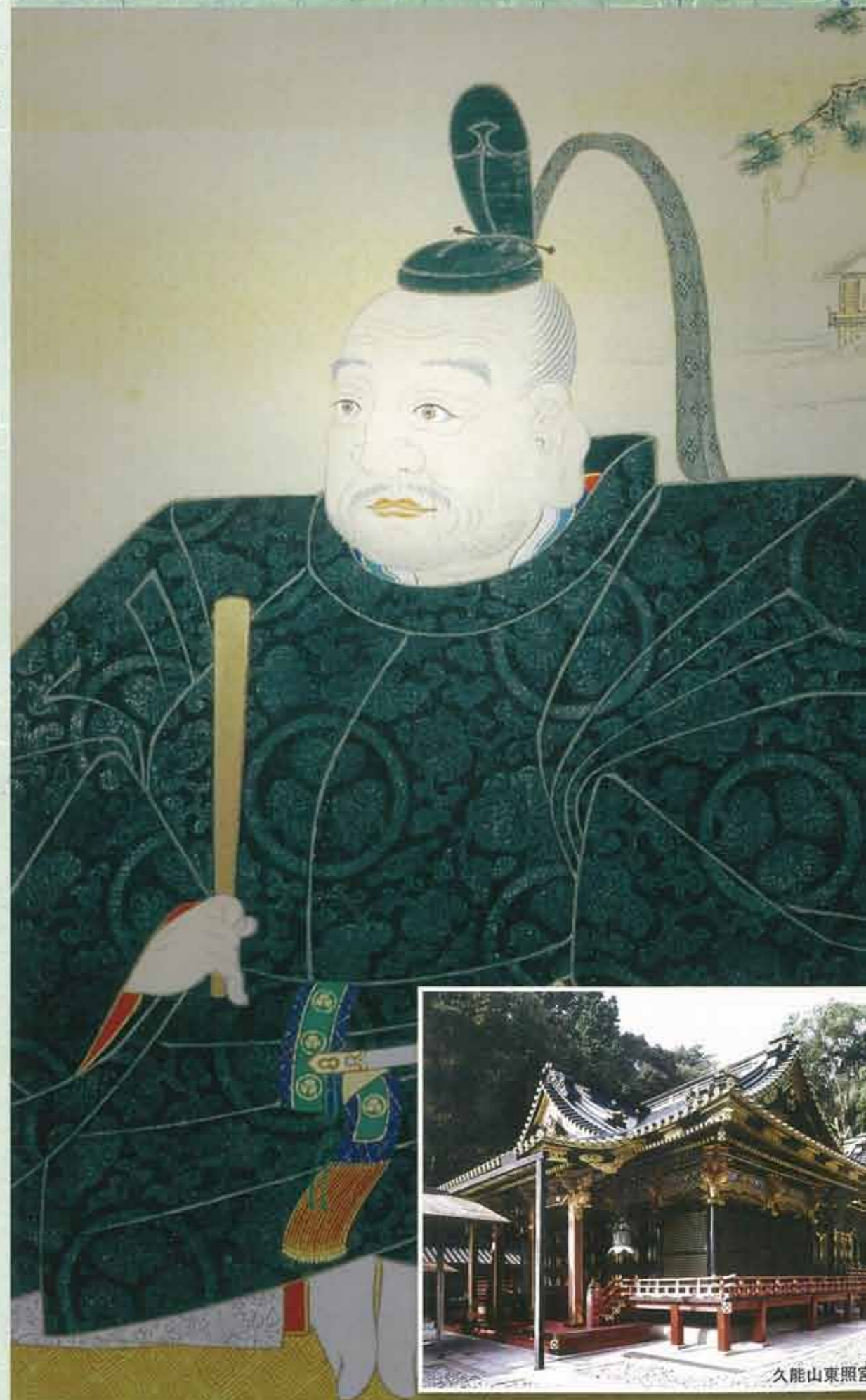
- 主催 徳川家康公顕彰四百年記念 全国学生書写書道公募展実行委員会
- 共催 久能山東照宮・静岡県教育委員会・静岡市・浜松市・静岡市教育委員会・浜松市教育委員会
 静岡県教育研究会・静岡県書写書道振興会
- 後援 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会・静岡県・全日本書道連盟・静岡県書道連盟
 静岡市書道協会・龍寶書道会・浜松書道研究会・書道研究青象会
- 協賛



徳川家康公
 顕彰四百年
 記念事業

全国学生書写書道公募展

募集要項



久能山東照宮

久能山東照宮代表総代会

ほろもフーズ

静鉄グループ

鈴与グループ
 Suzuyo Group

SHIZUGAS
 静岡ガス

静岡新聞 SBS

静岡銀行

清水銀行

趣 旨	徳川家康公顕彰四百年祭を機に、書写書道を通して青少年の健全な育成と豊かな心情を養います。併せて家康公の功績をより理解し、伝統文化の振興を図ります。
出品資格	学生（幼稚園・小学生・中学生・高校生・大学生）
毛筆課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼年 …… 「とく」(徳川のとく) ・小1 …… 「たけ」(竹千代のたけ) ・小2 …… 「ふじ」 ・小3 …… 「すんぶ」(縦1行書き) ・小4 …… 「太平」 ・小5 …… 「竹千代」(縦1行書き) ・小6 …… 「家康公」(縦1行書き) ・中1 …… 「堪忍」(楷書) ・中2 …… 「無事長久」(行書) ・中3 …… 「人は覚悟が大事なり」(行書) ・高校・大学 …… 書体自由「東照大権現」もしくは「人の一生は重荷を負ふて遠き道をゆくがごとし いそぐべからず」より ※但し、どちらか1点に限らせていただきます。
硬筆課題	<p>※幼年から小2までです。(えんぴつに限ります。)毛筆との重複出品可です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼年 …… 「みかんのはな」 ・小1 …… 「くのうざんに、のぼりました。」 ・小2 …… 「学校から、すんぶじょうこうえんまで、マラソンをしました。」
出品料	無 料
出品方法	※別紙出品規定を必読の上、必要書類提出をお願いいたします。
作品出品受付	平成27年8月1日(土)より9月10日(木) 必着まで これより遅れた場合、審査対象外とさせていただきます。
作品送付先	〒421-0121 静岡市駿河区広野4-30-6 「徳川家康公顕彰四百年記念 全国学生書写書道公募展実行委員会」 (※宛名は、略称の「家康公記念展」で送ってください) 事務局 杉浦弘承 宛 TEL.090-3857-3401 FAX.054-258-7221
お問い合わせ	同上(作品送付先と同じです。)

審 査	平成27年9月25日(金) 静岡市内にて ※審査結果につきましては、本実行委員会に一任させていただきます。
審査方法	各学年別に書写担当教員と実行委員にて1次審査を行います。 最終審査は全審査員にて決定します。
褒 賞	<ul style="list-style-type: none"> ★家康公顕彰四百年祭記念大賞……………2名 ★家康公顕彰四百年祭記念準大賞……………10名 ★静岡県教育長賞・静岡市教育長賞・浜松市教育長賞…各4名/計12名 ★久能山東照宮賞……………12名 ★協賛企業賞……………14名 ★全日本書道連盟賞……………12名 ★静岡県書写書道振興会賞……………24名 <p>【団体賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★全国最優秀団体校賞……………1校 ★全国優秀団体校賞……………5校 ★全国優秀団体賞……………若干数 <p>※金賞・銀賞・銅賞(賞状賞品あり) これ以下は入選とします。</p>
結果発表	平成27年10月 各出品団体宛に発送
展 示	<p>優秀作品を久能山東照宮博物館及び静岡市民ギャラリーで展示します。</p> <p>〈静岡地区展〉会場：静岡市民ギャラリー／ 平成27年11月23日(月)～29日(日) 午前10時～午後6時 (29日は、午後3時まで)</p> <p>〈特別賞のみ〉会場：久能山東照宮博物館／ 平成27年12月1日(火) 午後1時～平成28年1月24日(日)まで</p> <p>〈浜松地区展〉会場：クリエート浜松／ 平成28年2月2日(火)～7日(日) 午前10時～午後6時 (7日は、午後3時まで)</p>
表彰式	平成27年12月5日(土) 午後2時から特別賞入賞者を招待し、久能山東照宮にて表彰式を開催します。 ※特別賞作品以外の作品は返却せず、久能山東照宮に奉納致します。 上位入賞作品図録を作成し、入賞者に配布します。



©浜松市

徳川幕府の始まりと家康公	
1600年(慶長5)	関ヶ原の戦いで東軍勝利(家康公59才)
1603年(慶長8)	家康公が征夷大将軍になり、江戸に幕府を開く
1605年(慶長10)	秀忠に二代将軍職を譲る
1607年(慶長12)	駿府城を居城とし、大御所政治を行う
1609年(慶長14)	オランダと平戸(長崎県)で貿易開始
1613年(慶長18)	キリスト教の禁令を全国に拡大
1614年(慶長19)	大阪冬の陣
1615年(元和1)	大阪夏の陣(豊臣氏が滅亡) 武家諸法度の制定
1616年(元和2)	幕藩体制が固まる(家康公75才で死去)
1623年(元和9)	家光が三代将軍に

家康公が築いた駿府城(すんぶじょう)	
1586年(天正14)	豊臣政権の五大老の大名として浜松城から駿府に移った家康公は、駿府今川館の跡地に駿府城を築きました。1590年(天正18)、家康公は、秀吉の命により関東に移封。
その後、家康公は1607年(慶長12)	に駿府に戻り、三ノ丸を拡張し、天守などを修築。同時に、駿府の町割りや安倍川の治水事業に取り組み、現在の市街地の原型を造りあげました。東御門・巽櫓と坤櫓は、1638年(寛永15)に建てられた城門を再建したもの。
東御門内には大御所時代の駿府城と城下町を紹介する展示があり、巽櫓内には家康公が人質時代に学んだ臨濟寺「竹千代手習いの間」のレプリカを展示。本丸跡には、家康公お手植えみかん(県指定天然記念物)、大御所時代の家康公像があります。	

久能山東照宮(国宝)	
晩年を駿府城で過ごした家康公は、1616年(元和2)4月17日に75年の生涯を閉じました。亡くなる直前、家康公は家臣たちに「遺骸は久能山に埋葬すること」を託しました。	
遺骸はただちに久能山に遷され、二代将軍・秀忠公は家康公を祀る神社の造営を命じました。大工棟梁には中井正清が選ばれ、同年5月に着工。1年7カ月で建てられたのが久能山東照宮です。社殿は当時最高の建築技術・芸術が結集された権現造様式で、全国に造営された東照宮の原型。中井正清の晩年の傑作と評価され、2010年(平成22)に国宝に指定されました。	
博物館では、スペイン国王が家康公に贈った洋時計、家康公の遺品、歴代将軍の武具・刀剣などが公開されています。	

浜松城は出世城	
浜松城は、1570年(元亀1)、徳川家康公が29才の時に築城しました。以来、家康公は45才までの17年間居城し、この浜松で天下統一の礎を築きました。	
家康公が浜松城を離れた後は、24代の城主たちが浜松を守りました。	
このうち、天保の改革を行った水野忠邦をはじめ、数多くの城主が幕府の重役(老中、大坂城代、京都所司代、寺社奉行など)に登用されたことから、浜松城は後に「出世城」と呼ばれるようになりました。	
このことは、明治・大正時代の俳人、松島十湖(現浜松市東区出身)の俳句「はま松は 出世城なり 初松魚」でも詠われています。まさに、浜松城、そして浜松には出世運が根付いているのです。	